

特別展

相生のまつり

佐方八幡神社

2017年 9月16日(土)～10月1日(日)

【場所】相生市立図書館2階 思索の広場 【時間】午前10時～午後7時

【お問い合わせ】相生市立歴史民俗資料館 TEL 0791(23)2961

【休館日】9月19日(火)、25日(月)、29日(金)

－相生市内の獅子舞の起源－

獅子舞が最初に日本に入ってきたのは、推古天皇の二十年（612）に、百済の人が渡来し伎楽を伝えたといわれています。その後、伎楽は聖徳太子の庇護を受け、特に獅子舞は、それだけが切り離されて広い地域へ分布しました。また、伎楽について大陸から入ってきた舞楽にも獅子舞があり、民間に伝えられた獅子舞は、平安・鎌倉時代にかけて盛んに行われ、当時の宮中や民間の年中行事を描いた『年中行事絵巻』には、田楽衆の中に 5 頭の獅子が描かれています。



相生市の各地区の獅子舞の起源を調べたところ、すべてが伊勢大神楽の流れを継承しており、その所作は非常に優雅だといわれています。

伊勢大神楽と伊勢地方で古くからおこなわれる、お頭神事と呼ばれる獅子を舞い、疫病、悪魔払いをする神事のこと、これらの一団が他地方へ獅子舞を伝播しました。この伊勢大神楽の獅子舞は地方の人々に喜ばれ、特に若衆とよばれる青年組織に人気集中し、その舞い方を手習い、指導してもらいました。その程度でそれぞれの組織が工夫しながら独特の舞として変化し、自分たちの氏神の祭りで舞うようになりました。

相生の獅子舞は、古くは 26 地区で行われておりましたが、少子高齢化、行事に対する意識の相違などにより維持できなくなった地域もあります。しかし、祭りを支える人たちの、後世に伝え残していかなければならないという気概は今も昔も変わりません。



（相生市史第 4 巻より抜粋）